

栃木放送平成 27 年度第 5 回 9 月期定例番組審議会議事録

1.開催の日時 平成 27 年 9 月 17 日 (木) 午前 11 時

2.開催の場所 栃木放送本社会議室

3.委員の出席 委員総数 9 名

出席委員 7 名

欠席委員 2 名

出席委員名	委員 長	増 田 仲 夫
	委 員	太 田 照 男
	委 員	竹 内 明 子
	委 員	岩 村 由 紀 乃
	委 員	高 橋 幸 裕
	委 員	小 林 一 巳
	委 員	関 根 房 三
局側出席者氏名	代表取締役社長	竹 澤 一 夫
	報道制作局長	高 瀬 一 也
	報道制作局局長待遇	川 島 育 郎

4 議 題

(1) 「CRT ラジオスペシャル

ふたつの岸辺で～引揚者たちの戦後 70 年～」について

(2) その他

## 5 議事内容

### (1) 「CRTラジオスペシャル

ふたつの岸辺で～引揚者たちの戦後 70 年～」について

試聴番組：平成 27 年 8 月 9 日（日）14 日（金）放送

「ふたつの岸辺で」を予め試聴

議題説明：報道制作局 川島育郎が番組概要について説明。  
次に審議に入る。

各委員からは、

- 何が言いたかったのかわからなかった。周りから聴いている話なので、どこにでもある話、特異なことではないと感じた。民間人が犠牲になったのはなぜか、どうしてこうなったのかをもっと掘り下げて欲しかった。戦争はよくないんだともっと主張してもよかった。BGMが雰囲気にあっているか、違和感があった。
- BGMは思い切ったものを使ったなと思った。戦争の悲惨さを伝えるには効果的だったと思う。最初はサラッと聴いてしまったが、回数を重ねて聴くとより伝わってきた。ナレーションも淡々としていてよかった。タイトルが伝わってこなかった。何故戦後 70 年で引揚者だったのかが分からなかった。
- 何故引揚者だったのか、何故栃木放送でやったのか、その理由が分かるとよかった。引揚者は訥々と話していて印象的だった。
- いい企画だと思うが、焦点がボケたような気がする。戦争と自然災害は根本的に違う。まとめのナレーションも何を言いたいのか解らず非常に違和感をもった。BGMも音楽だけのほうがよかったと思う。
- 聴き終ってストレスを感じた。戦争はいけないということを伝えなければならないので、年に一回はいい企画だと思う。しかし、辛かったというだけで、焦点がボケてしまった。暗い気持ちになった。
- きっかけとしてはいい企画。敗戦後の辛さだけで、戦争はいけないというところにもっと焦点を当ててもよかった。
- 「岸辺」とはどこを指すのか、テーマがはっきりしていなかった。
- 引揚者の方が自虐的でなかったのが救い。
- 歴史は戦いの連続で避けては通れない所がある。だからこそ、淡々としていていい。後は個人が考えること。  
などの意見が出された。

当社としてはこれらの意見を参考に今後の番組作りに取り組んで  
いきたい旨を説明した。

(2) その他

先日の大雨の特別警報に関する放送内容、体制などを説明した。

平成 27 年度第 6 回 10 月期の審議会を 10 月 8 日（木）に開催するこ  
とを決めて閉会した。